

平成 28 年 5 月 21 日

松阪市議会議長

大平 勇様

楠谷 さゆり

研修参加報告

研修テーマ「地方議会論（6）-地方議会の議員の実際」

講師 松井真理子氏（四日市大学総合政策学部教授）

日時 平成 28 年 5 月 20 日（木）14:40~16:10

会場 四日市大学

記

「地方議会論」という 15 回の講義の、第 6 回目である。今回は、地方議会の議員の実際、というテーマであるので、三重県朝日町会議員の池田耕治氏を講師に迎えて体験談を聞いた。

池田氏は当選1回の40代で、議会の中で若手である。朝日町会議員は11名で構成しており、30代2名、40代1名、50代2名、60代1名、70代5名という年齢構成。すべて男性議員である。

プロのダンサーとして世界の舞台でも活躍した池田氏が議員を目指そうと思ったきっかけは、現代ダンスを学校教育に取り入れてほしいという要望を町に出したところ、町からは介護予防に役立てたいという提案が来たことであった。名古屋市ベッドタウンとして人口増が続く朝日町は、平成22年に人口増加率が前回調査比35.3%増の全国トップになり、また子どもの出生率も日本一の「多子高齢化」の町となった。池田氏は、ダンスで介護予防を呼びかけるとともに、気付いていない町の魅力があるはず、と出馬の決意を固めた。

ところがいざ選挙になると、田舎の選挙は自分の住んでいる地域の候補者に票を入れる、若い層は選挙に行かず高齢者ばかりが投票所に行く、という実態を改めて認識した。これでは、候補者は若い人のための政策を掲げなくなり、高齢者ばかりがターゲットの政策を「約束」することになってしまう、と池田氏は嘆く。

また、実際に自分が議員になってみると、何をしたら良いのかがわからず、議場で「重箱の

隅をつつくような」質問するだけで、行政側も「検討します」に終始する。議員が何を言っても行政は動かないことがわかったと言う池田氏は、そういった現実には今はやや失望しているのかもしれない。

しかしながら、3世代交流ができる町にしたい、という明るい目標を掲げて議員になった池田氏には、専門のダンスを利用しながら、朝日町独自の発展に若いエネルギーを発揮してもらいたいものである。

振り返って、松阪市ではどうかというと、やはり同様の傾向がある。高齢者問題はもちろんあらゆる人の将来の問題であるから大切なことには間違いないが、高齢者に耳障りのよい政策ばかりを唱えるのではなく、子育て世代や若者の問題にもスポットを当てるためには、その世代が選挙に行くことが必要であると、改めて感じた。